

月次県内経済

概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

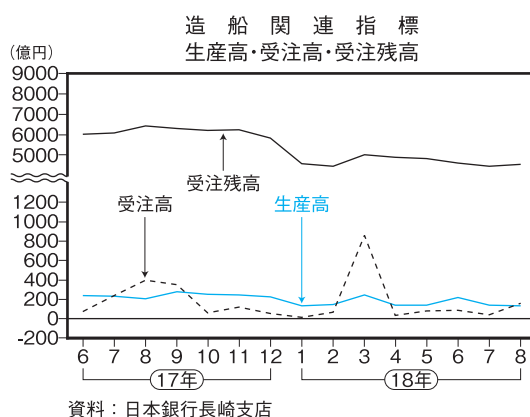
<9月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業がやや弱含み、重電機械は堅調、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は高水準ながら増勢一服、新設住宅着工戸数は横這い。個人消費では大型小売店販売額、乗用車（登録車）販売台数とも弱含み。観光面は、主要観光施設の入場者数・宿泊者数とも増加。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。10月入り後は、生産・投資は底堅く、観光面は持ち直しの動き。

造船

一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

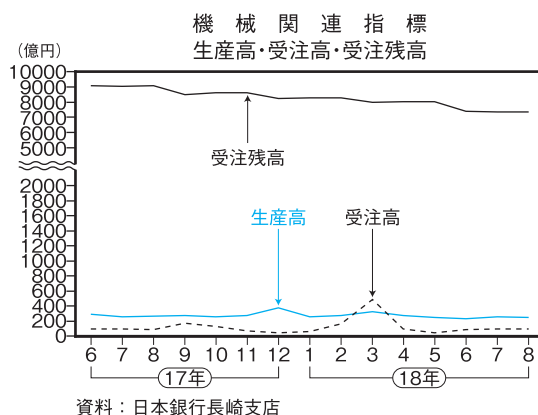


機械

重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は高めの操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。



小売商況

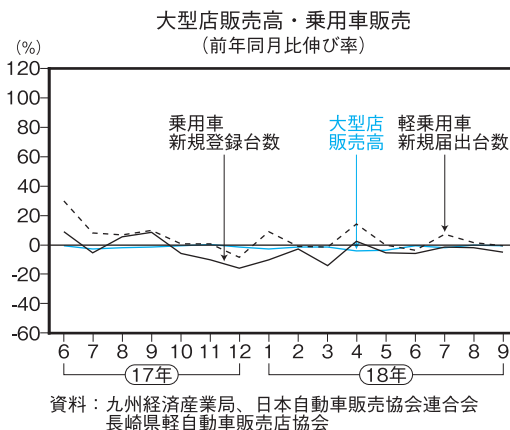
概ね横這い圏内も弱含み

小売商況をみると、9月の県内大型小売店販売額は、小幅ながら前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車ともマイナス。サービス消費面の旅行取扱高も前年割れ。なお、10月度の大型小売店等の売上げについては比較的底堅く推移。

9月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は78億円、前年同月比0.5%減（同一店舗比較）と10カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が2.3%増となったものの、衣料品は、主力の婦人服等が6.3%減、紳士服・洋品が8.8%減、身の回り品も3.2%減となるなど全体では6.9%減。このうち百貨店では、秋物商材の動きが鈍く、雑貨が伸びたものの、衣料品や食料品、身の回り品などが振るわなかった。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、9月の**新規登録台数**は1,951台、前年同月比5.1%減と5カ月連続のマイナス。うち普通車は3.7%増の1,080台、小型車が14.2%減の871台。また、軽乗用車は2,034台、0.6%減となり、3カ月振りの減少。軽を含む総販売台数では3,985台、2.9%減となり2カ月連続で前年を下回った。

サービス消費面では、9月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が前年同月比22.1%減となり、5カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が23.5%減で3カ月連続のマイナス、海外旅行は18.8%減となり2カ月振りのマイナス。

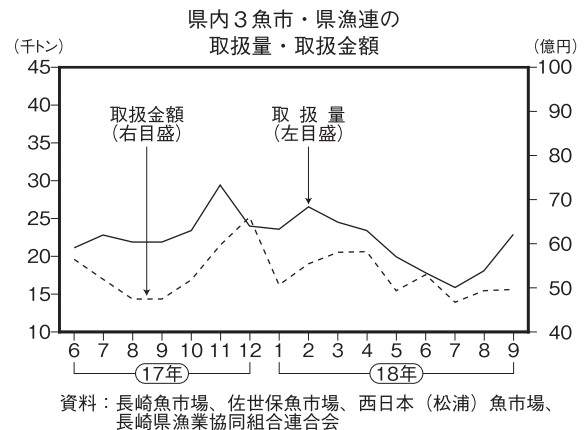


水産

取扱量、金額ともに増加

9月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量**が2.3万トン、前年同月比4.3%増加し、**取扱金額**も50億円、同4.5%増加した。

魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比64.2%増加し、単価も19.1%上昇、金額が約2倍となった。また、サバは数量が同20.9%減となり、単価が23.6%上昇したものの、金額は2.1%減少した。



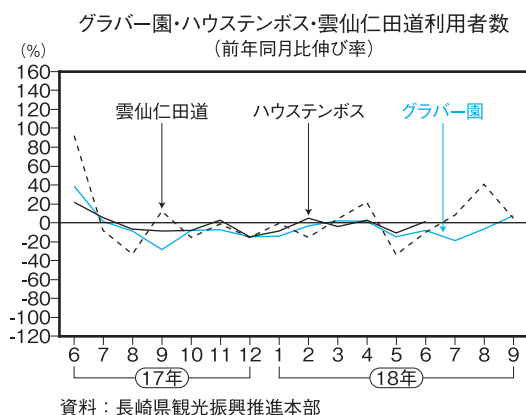
観光

主要施設の入場者数と宿泊客数ともに増加

9月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数が5カ月振りに増加に転じ、主要宿泊施設の宿泊客数も増加した。

主要観光施設等（13施設）の入場者は505千人、前年同月比6.6%増加した。地区別にみると、県南地区は長崎原爆資料館（6.2%減）が減少したものの、グラバー園（7.5%増）が増加、長崎歴史文化博物館（0.1%増）も前年並みとなった。また、島原半島ではリニューアル工事を終えた雲仙岳災害記念館が2.7倍増と好調を維持しており、島原城（8.0%増）と雲仙仁田道（4.6%増）も増加した。一方、県北地区では花と音楽、「食」に関連する秋のイベントが始まったハウステンボス、九十九島パールシーリゾート（13.7%増）がともに増加に転じ、再築城300周年記念の夜間イベントが始まった平戸城（11.4%増）も増加した。離島地区では、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連する堂崎天主堂（69.0%増）が4カ月連続増と好調、一支国博物館（14.6%増）と韓国人観光客が好調な万松院（73.8%増）も増加した。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比5.3%増加した。地区別にみると、県南地区が6.3%増となり、県北地区も4.2%増加した。一方、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は13千人、前年同月比5.3%増加したものの、小浜地区は7千人、同17.5%減少した。



公共工事

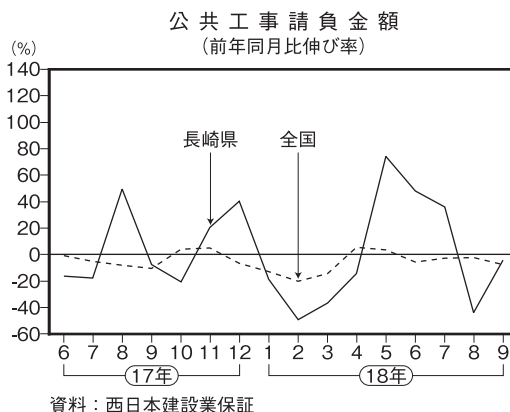
請負金額、増勢一服

9月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は468件、前年同月比5.6%減となり2カ月連続の減少、**請負金額**は207億円、同4.4%減と2カ月連続で前年を下回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「市・町」（110億円、23.4%増）は増加したものの、「国」（11億円、49.7%減）、「県」（79億円、8.8%減）は減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、対馬地区（37億円、2.1倍増）、島原地区（22億円、1.6倍増）など4地区。一方、長崎地区（42億円、3.5%減）、県北地区（35億円、35.2%減）、諫早地区（22億円、49.1%減）など6地区では前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、対馬市発注の対馬博物館（仮称）建設工事（13億円）、雲仙市発注の愛野コミュニティセンター（仮称）新築工事（10億円）など。



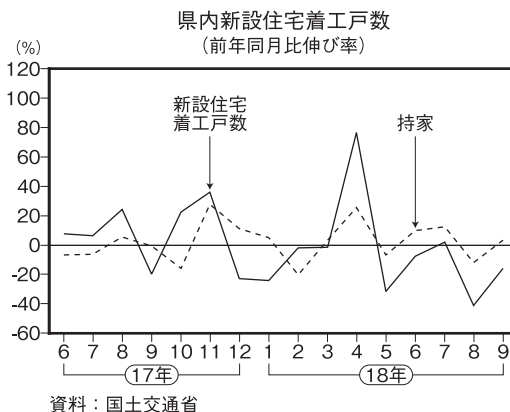
住宅建設

横這い圏の推移

9月の**新設住宅着工戸数**は561戸、前年同月比では15.9%減。概ね横這い圏の推移ながら、前年比減少となったのは、長崎市が高水準だった前年の350戸から81戸へ大幅に減少した影響が大きい。

主な利用区分別にみると、持家は270戸、3.1%増となったが、貸家が217戸、11.4%減となり、分譲は71戸（うちマンション50戸）、55.3%減と半減。

主な市郡別（県建築課調べ）では、大村市（119戸、2倍増）、佐世保市（118戸、73.5%増）など9市郡で前年を上回り、下回ったのは長崎市（81戸、76.9%減）、島原市（10戸、16.7%減）などの8市郡。



雇用

緩やかな改善傾向続く

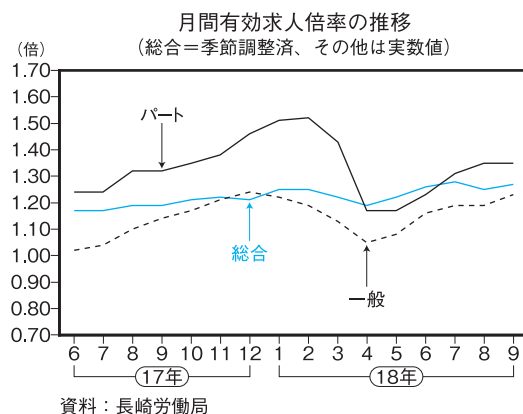
9月の県内の有効求人倍率（季節調整済）は前月を0.02ポイント上回る1.27倍。また、全国の有効求人倍率は前月を0.01ポイント上回る1.64倍となった。

新規求人数は10.2千人、前年同月比7.8%減となり、5カ月振りの減少となった。形態別では、一般求人が11.0%減と2カ月振りの減少、パート求人は3.2%減と2カ月連続の減少。主な業種別にみると、運輸業（31.0%減）では大幅減となったほか、建設業（11.2%減）、飲食店・宿泊業（10.7%減）、製造業（9.8%減）、卸売・小売業（6.5%減）など多くの業種で前年を下回った。一方、新規求職者数は5.4千人、前年同月比14.6%減となり12カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が15.3%減、パート求職者は13.5%減であった。

また、有効求人数は28.2千人、前年同月比2.2%減となり5カ月振りのマイナス、一方、有効求職者数は22.2千人、7.7%減と9カ月連続で前年を下回った。

就職件数は2.1千件となり前年同月比16.5%減。また、雇用保険受給者実人員は5.2千人、前年同月比3.5%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産

件数は変わらず、金額が増加

10月の県内の企業倒産件数（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月と同じ3件となり、14年11月以降、4年にわたり一桁台が続いている。

また、負債総額も18億円と、サービス業で17億超の倒産が発生したことから、前年同月比約8億円増加したものの、低水準が続いている。

倒産を業種別にみると、3件ともサービス業で、原因も全て「販売不振」。

